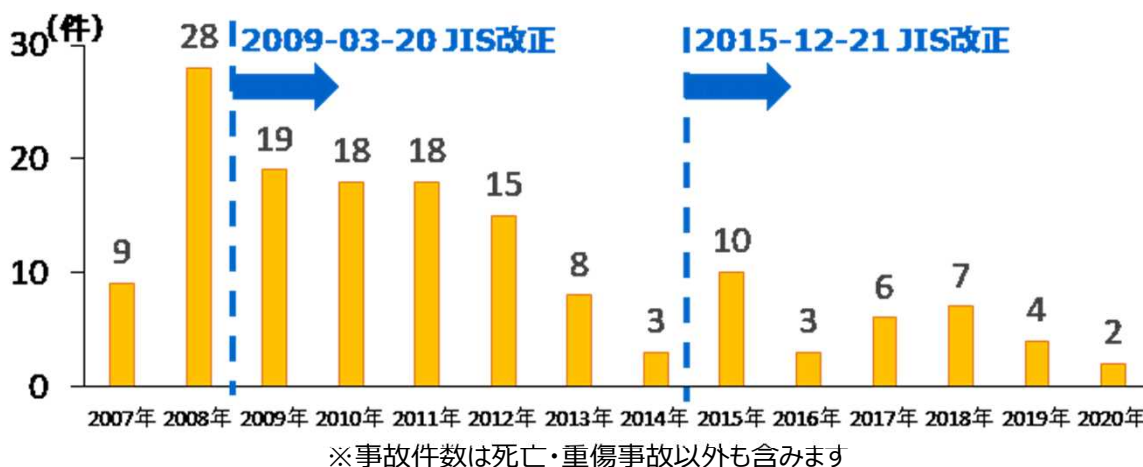


介護ベッドの事故に注意しましょう！

介護ベッド関連の死亡・重傷事故が発生しています。事故の多くは危険箇所の確認と正しい使い方によって未然に防ぐことができます。

挟み込みの事故	転倒・転落の事故
<p>109 件</p> <p>例： サイドレールとサイドレール（ベッド用グリップ）とのすき間に首が入り込み、挟まった。</p>	<p>19 件</p> <p>例： ベッドから車いすに移乗する際に、掴んだベッド用グリップが動き転倒した。</p>
<p>※2007年1月1日～2020年12月30日の累計発生件数 （（独）製品評価技術基盤機構（NITE）に報告のあったもの） ※事故件数は死亡・重傷事故以外も含まれます</p>	
<p>その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 電源ケーブルやプラグを破損させショートし発火・発煙 ✓ ベッドの動く部分（背・膝、高さ）を自分で操作して挟まる ✓ 自分で又は介助動作によりベッドなどに身体をぶつける 	

介護ベッド及び介護ベッド用手すり/柵の製品事故件数年次推移（NITE事故情報）



介護ベッド関連の事故発生件数は2008年をピークに年々減少していますが、近年は「横ばい」ともいえる状況です。

2009年には、介護ベッドに関するJIS規格が改定され、サイドレール周りのすき間の寸法など安全に関わる項目が厳しく規定されました。

これにより、死亡事故件数は減少しましたが、引き続き、脚や腕を挟む事故や転倒・転落による事故が発生していますので注意しましょう。

介護ベッドの使用上の注意

すき間への挟み込みは、とっても**危険**です！

- ✓ 最新の**安全基準**を満たした介護ベッドを選びましょう！
- ✓ サイドレールが変形しすき間が広がっていないか等、**定期的に点検**をしましょう！
- ✓ ご利用者の**状態に応じた**サイドレール類を選びましょう！
- ✓ 必要に応じサイドレールを覆う**カバー**をつけましょう！

※JISマーク付きの介護ベッドは最新の安全基準を満たしています。

＜ご自分ですき間チェックをしたい方は・・・＞

目安として、Aが12cm、Bが6cmより広い場合は、要注意。
ただし、独自で判断せず、福祉用具専門相談員、製造事業者等の
専門家に相談しましょう。



サイドレールカバー

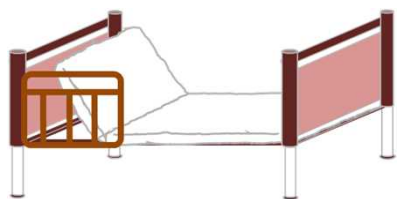
JIS T 9254



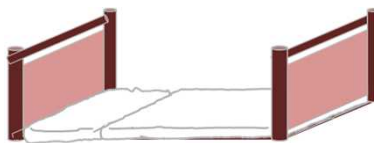
【JISマーク表示例】

転落や転倒に注意！

- ✓ **高さを低くできるベッド**、**衝撃緩和マット**や、**見守りシステム**で転落・転倒時のダメージや、リスクを低減することができます。



高さを低くできるベッド



衝撃緩和マット

安全に正しく使用しましょう！

- ✓ 安全な製品を選び、取り扱い説明書を読んで正しい使い方で使用しましょう。
- ✓ 定期的に点検し、必要時は製造事業者か販売事業者に相談しましょう。

発行（令和3年11月）

一般社団法人 日本福祉用具・生活支援用具協会

医療・介護ベッド安全普及協議会

経済産業省

独立行政法人 製品評価技術基盤機構

